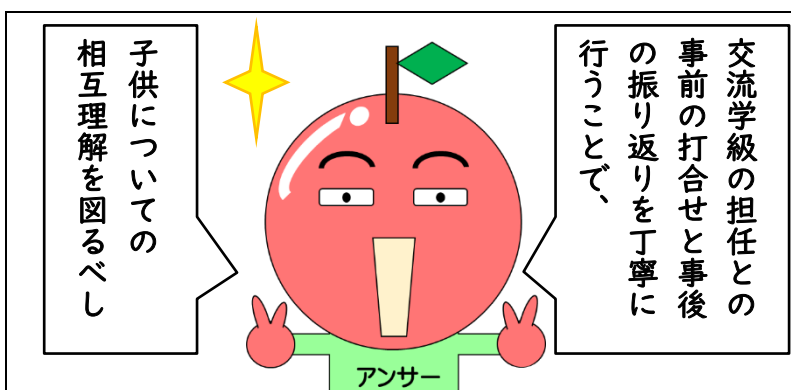
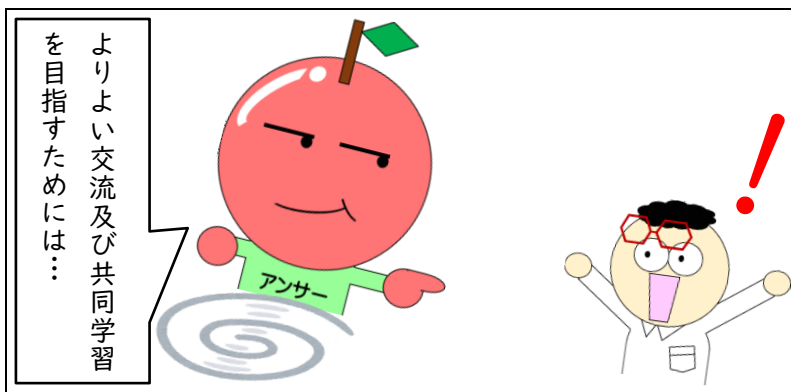
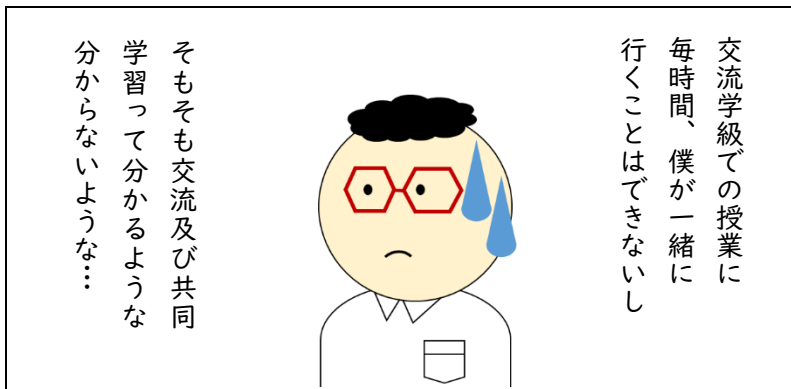
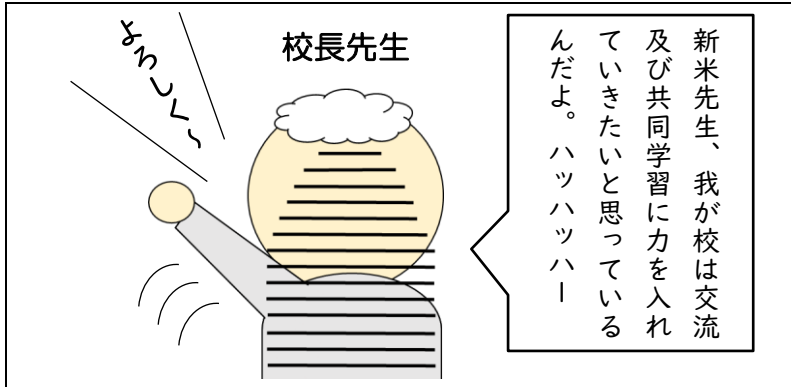


**Q6. 学級の子供が初めて交流学級で学習することになりました。
どんなことに気を付ければよいのですか？**



子供の実態について相互理解を図る

- 交流学級の担任と交流及び共同学習の意義について共通理解を図ります。
- 交流学級の担任との事前の打合せと事後の振り返りを通して、相互に子供理解を深め、よりよい学習活動や支援の工夫につなげます。

特別支援学級と通常の学級の子供が一緒に学習する機会は、互いの触れ合いを通して、互いを正しく理解し、助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができます。特別支援学級が設置されている学校では、日常の様々な場面で「交流及び共同学習」を行うことが可能であり、互いの教育的ニーズを把握しながら、実りある学びの場となるよう学習活動を設定していくことが大事です。一人一人の実態に合わせながら、その学習活動でのねらいを押さえ、計画的に進めましょう。

一番大切なことは、交流学級の担任（関係者）との事前の打合せと事後の振り返りです。また、教師同士が子供の実態や学級の特性を掴むことから支援の工夫につながり、子供たちが互いを理解するきっかけにもつながります。子供同士の交流に心地よい風を吹かせたいですね。



交流及び共同学習の形態	交流場面の例
①給食、清掃等を交流学級や特別支援学級で共に活動 ②教科学習を交流学級や特別支援学級で共に学習 ③学年や交流学級の行事に学年や学級の一人として参加 ④興味や関心のもてる単元や題材を選んで共に学習 ⑤交流学級の子供たちが特別支援学級の学習に参加 等	朝の会・帰りの会、給食、休み時間、音楽、体育、図画工作、生活、クラブ活動、委員会活動、遠足、校外学習、学習発表会、特別支援学級の生活単元学習、題材によって道徳 等

交流及び共同学習を行う際の配慮点

- 双方の学級の子供が、活動に主体的に取り組めるように授業の展開を工夫する。
- 交流先の子供たちが、障害についての正しい知識と適切な支援や協力の仕方について理解できるよう、丁寧な指導を継続する。
- 特別支援学級の子供は、困ったときに支援を求めたり、自分の気持ちを表現したりすることができるようにする。
- 事故防止に努め、活動が特別支援学級の子供の過度な負担にならないように留意する。

また、配慮に当たっては、一人一人の障害の状態や特性によって違うため、柔軟に対応することも大切です。「同じ時間を同じ場所で過ごすだけの交流」にならないように、日頃から教師間での「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）」を心掛け、子供たちにとっての「よりよい交流」を目指しましょう。



【文献】秋田県総合教育センター（2017）：特別支援学級新任の手引き【改訂版】。
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2009）：友だちをわかってもらうこと、自分をわかってもらうこと。
 文部科学省（2019）：交流及び共同学習ガイド。

よく一緒に読まれている Q

- Q7 「[交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？](#)」
 Q8 「[交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？](#)」

[目次に戻る](#)